


APAC TBO Pathfinder Project

- APAC（アジア太平洋）地域におけるTBO(軌道ベース運用)の運用価値を実証し、TBO実現に向けた動きを前進させる事を目的とするプロジェクト。
- 日本・米国・シンガポール・タイ・中国・香港・フィリピン・ニュージーランド・インドネシア・ベトナム・韓国・IATA・CANSO、12の国と組織が参加。
- 令和5年LOI（意向表明書）が署名され、同年4月の初回会議から4年計画で教材開発、実証シナリオ開発、ロードマップ、便益算出を議論し、出発から到着までのTBO運用の有効性の検証を検証する。
- 日本は令和5年に実施したMR TBO※1の経験をもって貢献するとともに、地域の相互運用性を図りながら我が国のFF-ICE R1及びR2※2の実装に向け参画。

※1 : Murti-Regional Trajectory Based Operations ※2 : Flight and Flow-Information for a Collaborative Environment Release 1及び2

MR TBO	2023年度	2024年度 (R6年度) ~ 2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	2027年度 (R9年度)
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本・米国・シンガポール・タイによる令和2年~令和5年のTBO実証計画 ➢ 実証飛行はシアトル~成田~シンガポール~バンコク 	<p>APAC TBO Pathfinder Projectの設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和5年10月 LOI調印 (シンガポール) ➢ 4か年計画 (令和6年~令和9年) 	<p>FF-ICE/R1 デモンストレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ FF-ICE/R1（飛行前の軌道調整）のシナリオやメッセージ処理手順の確認 ➢ APAC地域におけるFF-ICE/R1の導入に向けた運用要件や技術要件の検討 ➢ FF-ICE/R1を研究機関の模擬環境を用いて模擬、検証 	<p>FF-ICE/R2 デモンストレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ FF-ICE/R2（運航中の軌道調整）のシナリオやメッセージ処理手順の検討 ➢ 軌道変更の条件、国間の情報共有、混在環境での手順を机上演習によって整理 ➢ FF-ICE/R2を研究機関の模擬環境にて模擬、検証 	<p>運用を想定した検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ TBOの運用要件や技術要件の検討 ➢ TBOに関する運用ルールやシナリオの検討 ➢ 研究機関の環境下で検証された運用シナリオを用いて、出発前から到着までを対象としたTBO運用の実証

WG1 教育資料の開発、公表



解説冊子 - アジア太平洋地域におけるTBO (第1版)

WG2 トライアルと能力構築

ハノイにおけるFF-ICE/R1ラボデモ2025年7月22~24日



FF-ICE/R1を活用した運用シナリオに関するデモンストレーション

WG3 ロードマップ策定、公表



APAC Seamless ANS計画に向けたTBOロードマップ (ATM/SG13 WP22)